

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1278400096		
法人名	医療法人美篤会		
事業所名	グループホーム安房穂		
所在地	南房総市和田町黒岩9-1		
自己評価作成日	令和5年11月15日	評価結果市町村受理日	令和6年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和5年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた小学校跡地の一角に建てられた木造平屋建ての1ユニットのグループホームで、敷地内には同法人の特定施設があり、そこでデイサービスも行っている。川沿いに桜の木が植えられていて花や新緑紅葉など楽しむことができる。隣ではグループ法人の職員が畑を作っており四季折々に新鮮な野菜をいただくことができる。不定期ではあるが、皆でカレー・豚汁・焼きそばなど一緒に作りお昼に食べたり、庭のウッドデッキにて食事をすることもある。月に一度、ドライブやホーム内のイベントを企画しており季節を感じてもらえるよう心掛けている。また法人内の協力病院と医療連携をしており、早期発見早期治療を実践し、コロナの予防にも職員一丸となって取り組み利用者はコロナゼロで今日まで過ごされている。地域とも繋がりお祭りに参加したり、味噌づくり、梅干し作り、たくあん作りなど、作り方を教わり行っている。

「地域の方との触れ合いと助け合いを大切に、入居者の安心と安全を第一に考え、心から家族と思える介護に専念する」の理念を実践につなげるよう努めており、季節の食材は法人の畑で収穫した物、地域住民が栽培収穫した物を、利用者と一緒に調理している。隣接する母体の医療法人が、利用者の健康管理や体調に変化がある場合は早期に受診でき、重症化しないように支援しており利用者、利用者家族の安心につながっている。ホームの庭では、プランターに野菜や花を植えて、利用者が草取り、水やりを職員と一緒にこなしている。日々の楽しみになっていると思われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に唱和し共有して実践につなげている	相談室、リビング、玄関に理念を掲示している。毎朝、申し送り時に唱和して理念を意識付けており、理念に沿ってケアにあたるように周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ホームのお便りを回覧板で回してもらったり、お祭りの花づくりに協力したり、祭礼時に子供たちにお菓子を渡す役割をいただき利用者が参加することができた	自治会に加入して、回覧板で自治会の活動を把握している。自治会の祭りの山車に飾り付ける花を利用者と職員で作って提供した事もある。また、お祭りでは利用者が子どもたちにお菓子を渡す役割を引き受け、楽しいひと時を過ごした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へのお便りや運営推進会議で相談に応じていることを話すも今年度は相談が来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議を行い報告や話し合いをしている。意見をサービスの向上に活かすよう努力している	運営推進会議の参加者は民生委員、区長、地域包括支援センター職員、家族代表の参加で、年6回開催し、事故報告やヒヤリハット報告もして、活発に意見交換している。	利用者家族に運営推進会議開催日を連絡し、家族の参加を促し、意見を吸い上げる機会になるとよいと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導で担当者と顔の見える関係になったので、協力関係を築けるよう努力していきたい	実地指導を受けたことで、高齢者支援課の職員と意見交換ができ、管理者は今後いろいろな相談が出来ると考えている。地域包括支援センターから入居相談を受けることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度委員会を開催し身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置して、3か月に1回委員会を開催し、身体拘束ゼロへの基本方針・マニュアルを用いて、具体的に身体拘束をしないケアについて研修している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修や委員会の設置で学ぶ機会や話し合いを持つことで職員の関心を高め防止に努めている		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い学ぶ機会を持ち必要のある場合は関係者と話し合うよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は説明をして理解や納得を得ている。改定時は書面にてお知らせし同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価の際のアンケートの意見を真摯に受け止め運営に反映するよう努力している。面会時には気になる点や要望等を尋ねるようにしている。	面会来訪時や、電話連絡時などに意見を聞いている。気圧の変化で体調に変化が出るため考慮してほしいとか、外出の機会を多くしてほしいとの意見が出ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の個人面談を行い意見や提案を聞く機会を設け、可能な限り反映させている	個人面談は年1回管理者がおこない、毎月1回職員ミーティングで意見を聞いている。外国人職員がいることから、食事の献立や買い物リストが手書きでは分かりにくいという意見があり、対応する予定にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力に合わせ仕事の機会を作ってはいるが、やりがいや向上心を持って仕事に臨んでいる職員は少ない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格の取得や研修の参加を進めているが、自分自身のスキルアップを求めている職員が少ない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナに入ってから行ってない		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話す機会を多く持ち、その方をよく知るとともに要望を受け止め		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話を聞いたり電話やラインのやり取りで初期の関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族がどちらも安心できるようどのようなサービスが適切か検討し対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に掃除や炊事、洗濯もののかたづけをすることで生活を楽しめるよう、また梅干し梅シロップ、たくあん・おはぎなどともに作ることで昔話に花が咲き関係性の構築に役立っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	買い物や受診など各家庭の事情を考慮したうえで役割分担しともに支える関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく親戚や友人の面会・外出なども受け入れているがコロナの名残であまりかかわって来る方はいない	家族の面会は居室で15分程度可能としている。また、近隣の友人や親せきの面会もある。海女をしていた利用者に海を見てもらおうと出かけたり、お祭りの山車に飾る花を作って地域の人に届けるなどこれまでの関係性を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	見守りや車いすを押すのを協力していただいている		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後協力病院に入院されている方のお見舞いなどは行かせていただいている。亡くなった方の葬儀には花を贈っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らし方の希望、以降の把握に努めている。本人の思いと主治医の指示が一致しない場合に悩むことがある	入浴の時間は利用者と職員が一人一人になれる機会なので、何が食べたいか、どこに行きたいか、どんな人に会いたいかなど思いを聞くようにしている。把握した利用者の気持ちはカンファレンス等で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、在宅時のケアマネなどから情報を収集に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	楽しく過ごすための企画や提案をし一緒に行うことにより現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護員・看護師・作業療法士・本人・家族の意見を聞き現状に即した介護計画を作成している	看護師には介護計画の見直し時に意見を聞いている。また、作業療法士にもアドバイスをもらい、家族には所定の用紙を送って意向を確認している。カンファレンスでこれらの意見を踏まえ、職員と意見交換しながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録をすることで情報を共有しケアに役立っているがまだ十分とは言えず介護計画の見直しには生かきれていない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時家族の都合がつかない場合は職員が同行している		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症カフェなど連絡を取り参加を促している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の希望で主治医を選択することができ、有料ではあるが受診介助もしている	法人母体の病院で誕生月に健康診断を受けたり、訪問看護により健康管理をしている。現在7名の利用者のうち、3名がもともとのかかりつけ医にかかっており、ほとんどホームで通院同行をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度訪問看護師が来所し日ごろの気づきを報告している。健康観察をしていただき受診指示に従い受診している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日ごろから病院関係者と関係背を築いており、入院の際はできうる限りの情報を伝えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族と話し合いを持っている。その後は状態の変化に合わせて話す機会を持っている。最近では食事が入らなくなると入院になるケースが増えてきている	「重度化対応・終末期ケア対応指針」はあるが、母体が病院であることから、重度化した場合病院に移っており、家族にとっては安心につながっているとも言える。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生を含む応急手当を訓練し実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害を想定した訓練を行っている。地域の消防団員が気にかけてくれ関係性が築けている	避難訓練は年3～4回、全職員が参加して実施している。水害想定訓練では隣接するサービス付き高齢者住宅の2階3階に避難した。また、停電想定では、卓上コンロで炊飯し、豚汁を作った。備蓄は水、食料が3～4日分あり、賞味期限の管理もしている。	BCP(事業継続計画)がもう少しで完成するので、年度末までの完成が望まれる。また、目標達成計画にあげていた「職員全員が発電機稼働訓練をする。」については、引き続き継続が期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧で親しみを込めた言葉かけを心掛けている	ホームでは接遇研修を実施し、利用者を尊重した対応に心がけている。居室に入る時には必ず声掛けやノックをして断ってから入室したり、「カーテンを閉めますね。」など、職員が勝手におこなわず、必ず確認するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶を選んだり、ふろの時間を選んだり、服を選んだりする機会を作っている。誕生日には食事のメニューやお茶のお菓子を選んでもらっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事とお茶の時間が決まっているだけで、あとはそれぞれ思い思いに生活できている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1日に何度も着替えたり、肌のお手入れをしたり髪を結んだりそれぞれのおしゃれを楽しんでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢や体調不良の利用者が多いために月に1度イベントとして機会を設けている	法人が所有する畑から届く新鮮な野菜を使用している。利用者はピーラーで皮をむいたり、テーブルふきや下膳など、できる事で参加している。気候の良い時にはテラスで食事をしたり、お弁当を持ってドライブに行くなど食事を楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	持病や習慣を考慮しながら食べる量や栄養バランス、水分量を取っていただいている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの習慣や気分に合わせて1～3回の口腔ケアの支援をしている		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ドクターストップがかかった利用者以外はトイレでの排泄を行っている	排泄チェック表を付けてパターンを把握しており、個々に声掛け誘導をしている。医師の意見により、転倒防止のためトイレで排泄できていない利用者はいらぬものの、トイレでの排泄を基本としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食事、運動によりスムーズな排便があるようまた下剤を飲んでいても最小限で済むよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、選択肢を提示して曜日や時間帯を選んでもらい入浴していただいている。夏場は要望により週3回入られる方もいる	「一番風呂がいい。」「ゆっくり入りたい。」など、入浴の順番はできるだけ希望に応じるようにしている。入浴は利用者と職員が一对一で話せる時間なので、利用者の思いを聞くようにしている。また、入浴剤で気分を変えたり、ゆず湯やしょうぶ湯など季節感も大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後好きな時間帯で休むことができる。電気屋布団の具合は選択できる用支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員がすべての利用者をとはいかないが、おおむね作用副作用について理解している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持てる方には持っていただき、精いっぱい感謝の言葉を投げかけている家族と協力して嗜好品が楽しめるようにも支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換になるべく戸外に出られるよう支援している。コロナが落ち着いてきたがまだ家族や地域の方と出かけることはない	ホームを出ると川沿いの桜並木があり、車いすの利用者も含め2～3人のグループで散歩に出かけている。また地域の花壇を見に行ったり食材の買い物に行くこともあり、できるだけ外に出る機会を作っている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば支援している。ほとんどの利用者がお願いしたいと話されている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やライン・手紙などやり取りできるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々、年中行事がわかるよう工夫している。光や温度も不快にならないよう配慮している	リビングにはシクラメンの鉢が飾られ、季節が感じられた。オープンキッチンで、食事の支度を音や匂いがする。また、2か所に時計があり、大きなカレンダーもかけるなど見当識障害にも配慮している。一日4回程度の換気とこまめな室温調節で快適に過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席・テレビ前ソファー・窓際テーブルなどその時々で思い思いに過ごせるよう工夫したり声掛けしたりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族がセッティングしてくださりその後は本人と話しながら模様替え等行っている。	ベッドとカーテンはホームで準備している。利用者は電子ピアノ、ゆったり座れるいすなどを持ってきたり、自分の作品を飾るなど、思い思いに居室を設えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自立した生活ができるよう文字や絵を取り入れ工夫している		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと